

心は

1

僕が煙草を口にくはへて
しばらく 窓の外のブロックの塀を見つめてみた
マッチ箱から一本のマッチをまさぐり出して
さて と思つたが
僕のくはへてゐるのが釘であることに気づいた
それでも 火をつけようとしたが
中指と親指のあひだにはさまれてゐるのは
マッチではなかつた
鉄色の小さい細い釘を 僕は
もえるやうな目で、見つめてみた

2

電車より速く 窓の外を
何本もの釘が飛んで行く
ずゐぶん大きい釘で 枕木位の長さだ
電車はどこにもとまらない
プラットホームの屋根が音もなく崩れ落ち
ホームにゐた人たちが埃にまかれ
いろいろな姿勢で倒れ 顔をこちらに向けたりした
電柱がボキンボキン折れて散乱するし
木の葉がしぶきのやうに舞ひあがる
僕の乗つてゐる電車が走りすぎたあとは
どうなつてゐるのだらう
スピードのある何本もの枕木位の長さの釘は
見える限りの風景を壊して行く
僕だけが心配してゐるのだらうか
悲しいことだけれど みんなだまつてゐる

3

殺意あるものの如く
それは ななめに突きささつてゐる
十階建のしやれた外装のタイルも
ところどころにひび割れを見せてゐる
はるか彼方の青空を細長くかこんで見せて立つてゐたのに
ビルは死んでしまふのではないか
釘は 六階の中央の窓を破つて

約六十度の角度で突きささつてゐる
建物の中央の地点
コンクリートの下の地盤深くまでやられてゐるにちがひない
真新しい釘だ
下から見上げると
釘の頭はガラス窓にうつつてゐるが
一つの窓では足りなくともう一つの窓にもかかはりあひ
当然のやうに見下してゐる
遠くからも釘の頭は見える
ピカピカと光つてゐる
ななめに道の上に突き出てゐる
不恰好な構図になつても
なんとなく現代的な意味が感じられるのは
ビルが 元来 素晴らしいからではないだらうか
釘にやられてゐても
たとへ 死んでも